

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第8回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・報告事項

（1）大潟工業団地の整備に関する進捗状況等について

（2）浜線の利用状況と今後の方向性について

・協議事項（公開）

（1）今後の地域協議会での取組事項について

・その他（公開）

3 開催日時

令和6年12月19日（木）午後7時00分から午後8時37分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 大会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：天野委員、押見委員、小林委員、小山委員、佐藤委員、佐野委員、清水委員、新保委員、竹田委員、土屋会長、俵木副会長、横田委員

（14名中12名出席）

・産業立地課：水澤課長、村中主任

・事務局：大潟区総合事務所 小池所長、新保市民生活・福祉グループ長、風間班長、水澤主任

8 発言の内容（要旨）

【水澤主任】

・会議の開会を宣言

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【土屋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：新保委員に依頼

【土屋会長】

報告事項（1）大潟工業団地の整備に関する進捗状況等についてに入る。産業立地課から説明願う。

【水澤課長】

貴重な時間を割いて報告の場を設けていただき感謝する。大潟工業団地の整備についてはこれまでも説明させていただいてきているが、進捗としては6月に説明した内容から進展はない状況である。ただ、この間の取組や経過等も含めて報告をさせていただきたい。今後も市役所を挙げて工業団地の整備に取り組んでいきたいと思っているので、よろしく願います。

【村中主任】

資料No.1により説明。

【土屋会長】

意見、質問はあるか。

【佐藤委員】

先回も聞いたと思うが、合意に至っていない地権者とはどのような問題で合意に至らないのか。差し障りなければお聞かせ願いたい。

【水澤課長】

先般もこの場で担当職員が答えさせていただいたが、合意に至らない理由についてはまだ交渉中であること、個人情報等に触れる関係があることにより答えることができないことを了承いただきたい。

【佐藤委員】

土地の値段なのか。

【水澤課長】

詳細な部分についてお答えできないことをご理解いただきたい。

【佐藤委員】

合意に至っていない地権者は何人くらいいるのか。

【水澤課長】

人数についても詳細にお答えできない。議会にも一部の地権者と報告している。

【佐藤委員】

見通しはどうか。大丈夫なのか。

【水澤課長】

大丈夫と申し上げられるようであれば、もう少し交渉もスムーズにいつているところである。先ほど説明させていただいたように、この間、丁寧な説明はさせていただいている。他の地権者もいることであるし、企業からの引き合いもあるので、誠意をもって、今後速やかにご理解いただけるように取り組んでいきたいと思っている。

【佐藤委員】

その地権者を除いて整備することは、虫食い状態となり駄目なのか。

【水澤課長】

1カ所にまとまっているようであれば他を除いて考えることもできるが、内部で検討した結果、その土地を除いての団地の整備は難しい状況になるため地権者にご理解いただきたいと思っている。

【佐藤委員】

代替地と交換するなどでも駄目なのか。

【水澤課長】

その辺も交渉事として選択肢の一つとしては考えてはいるが、具体的にそういった話を示している段階ではない。今後の交渉の中で視野に入れながら取り組んでいきたい。

【土屋会長】

他に質問等がなければ報告事項（1）大潟工業団地の整備に関する進捗状況等についてを終了する。

～産業立地課退席～

次に（2）浜線の利用状況と今後の方向性についてに入る。事務局から説明願う。

【風間班長】

資料No.2-1, 2-2, 2-3により説明。

【土屋会長】

質問、意見はあるか。

【小林委員】

利用状況など鵜の浜の関係者であるので気になる課題である。資料には人数ベースで出ている。頸城自動車は公共交通ということで会社としてやっているということは、このように低い人数だと営利目的ではなかなか難しいと思う。上越市からある程度の補助金が出ていると思うが、何人になれば採算が取れるのか。この路線を運行するために補助金はどのくらい出ているのか。

【小池所長】

資料No.2-2の「バス路線の収支と評価結果」をご覧いただきたい。風間班長の説明で1便当たりの利用者数については触れた。ここに経常費用、経常収益、経常欠損、収支率などが記載されている。小林委員からの質問のあった市の補助金についても記載されている。例えば、浜線だと令和4年決算で920万円ほどの補助をしてなんとか走らせている状態である。市内にはたくさんの路線があるが、1年間に上越市がバス会社にお支払いしている補助金の総額は4億円程度である。収支がどんどん悪くなっており、補助金が増えている状況の中で、定期的に見直しをして計画を立てているが、最低限の条件として空で運行するのはどうなのかということで1便に1.0人を上回る乗車がない場合を廃止の基準にしている。補助金から割り出した数字ではない。全体の補助金が4億円程度と大きいお金であり、それが増えている状況を鑑みて1.0人というのは前回の公共交通の計画の中で議論され目安として定められた。

【竹田委員】

個人的にバスを利用するときに思うのだが、鵜の浜から柿崎もしくは柿崎から鵜の浜までの中で往復される方もいると思うが、直江津までバスを利用したいときに乗り継ぎの時間が悪い。真夏の暑いときや真冬の寒いときにバス停で30分近く待っているのは純粹にきついと思う。もう少し乗り継ぎの時間がなんとかならないか。たまにバスを利用するので時刻表を持っているが、柿崎行きは乗り継ぎで20分程度待つことになる。利用を促進したいのであれば乗り継ぎを何とかすることも必要であると思う。

【小池所長】

竹田委員の意見はそのとおりだと思う。資料No.2-2を再度見ていただきたい。浜線

に市の補助金が920万円入っているとお話したが、その左横を見ていただきたい。バス運行のために国からの補助金も入っている。しかし浜線には入っていない。なぜかと言うと浜線があまりにも不採算路線であり、国としては必要がないのではないかという判断で0円となっている。上越大通り線は、ある程度の利用があり国としても重要な路線として補助金が1700万円入っており、市の補助金も4700万円入っている。昔の浜線は鶴の浜から直江津までで、もう少し便数もあり乗りやすかったが、だんだんと少なくなってきた。上越大通り線もだんだんと少なくなってきた。上越大通り線を国の補助を受けながらしっかりと残すために浜線と繋げた。そのため長い行程の路線であり、一番の問題は冬に遅れがちとなる。竹田委員の言うように乗りやすくして乗降客を増やせば採算路線として国の補助もいただけるのだが、現状はだんだんと乗らなくなって悪くなってきて、工夫に工夫を重ねて今こういう現状である。ただ、乗り継ぎ等の要望は、今後も機会があればバス会社に伝えていく。

【俵木晴之副会長】

近所の人が頸城自動車の運転手をしている。前に聞いたのだが、以前は柿崎から直江津までずっと繋がっていた。それが、国の補助金の関係で区切るしかなくなったそうである。その関係で乗り継ぎとなりタイムロスが出ることになったと聞いた。

【小池所長】

国の指導を受けながら路線を決めていて、補助もいただいている関係で今の形に至っているようである。この1年間にバスを利用されたことがある方はいるか。

(3人挙手)

運賃が高いと感じるか。なぜこのようなことを聞くかと言うと、燃料費の高騰等で春から更に運賃が上がると聞いている。そうすると乗りたい人にとっては高く、また負担をかけてしまうのかと思う。

【俵木副会長】

バスに乗車するとイベントの時に使える100円の割引券配布があったとのことだが、今もやっているのか。

【風間班長】

縁日&酒まつりの時にだけ使える割引券を発行した。

【土屋会長】

以上で報告事項（2）浜線の利用状況と今後の方向性についてを終了する。続いて協議事項（1）今後の地域協議会での取組事項についてに入る。事前に配布した資料については事務局から、本日の進め方については私が説明する。

【風間班長】

参考資料について説明。

【土屋会長】

質問等はあるか。

（一同無し）

班分けについて、前回欠席された方にも希望を聞いた。その結果、「地域の魅力の向上」が9人、「まちづくり」が5人となった。人数に差があるが、このまま進めてよいか。

（一同了承）

では、この班分けで進める。グループごとに別れた後に、グループ内の役割を決めていただきたい。グループ協議後に班ごとに発表していただく。班ごとにホワイトボード、模造紙、付せん用紙などを用意してある。

参考資料により進め方を説明。

では、グループ協議に入る。

～グループ協議～

【土屋会長】

では、発表に入る。まず、「まちづくり」の班からお願いします。

【竹田委員】

まちづくり班では、大きく分けると4点の話が出ていた。「免許の返納についてどの様に考えるか」、「子どもの居場所づくり」、「人口の増加について」、「地域との懇談」である。免許の返納については、公共交通機関のあり方を今一度見直してはどうかという話が出ていた。先ほどの路線バスに囚われずに、地域巡回型のバスであるとか予約制のバスなどの考え方や、スクールバスを上手く活用するのはどうかなどの話が出た。子どもの居場所づくりについては、放課後児童クラブの利用をしたいけれどできない子に対し

てどのようなアプローチができるかという話が出ていた。空き家や公民館を利用する方法はないかという話が出ていた。子育てに関してや免許返納しやすい住みやすい地域を作っていけば人口増加に自然と繋がっていくのではないかとということで、子どもたちの話を聞いたりとか、高齢者の足をどうするのか考えることで人口増加につなげていきたい。そこに関して、子どもたちの意見を吸い上げるために地域と懇談をしていきたいという話が最後に出ていた。社会福祉協議会で子どもたちのアンケートは既に実施しているとのことだったので、その意見を取り上げてみたり、今の子どもたちの声を聞くために直接学校に赴いたり、地域のPTAに声をかけたりということをしていくのはどうかという意見が出ました。

【佐藤委員】

地域の魅力の向上では歴史遺産や観光資源など大潟の魅力を発信するにはどうするか、今の魅力発信の問題点は何なのかということで意見を出してもらった。まず、魅力の発見したときに提案する窓口がない。今、パンフレットやホームページなどをまちづくり大潟や観光協会、市などが作っているが、特に若い人たちや小学生、中学生、高校生の意見を届けてもらうことが必要なわけで、届ける窓口がはっきりしていない。そういった窓口を作る必要があるのではないかと。若い人はSNS等ができるが小さい子どもや高齢者は無理なので、意見箱を作って総合事務所、公民館、小中学校に設置して気軽に意見や要望を届けるシステムが必要ではないか。大潟のウェブサイトを作る必要もある。人魚館や観光協会、大潟水と森公園など発信しているところはあるのだが、ネットワークとして連携が取れていない。人魚館の各種教室や鵜の浜の色彩音楽花火は、地元の人も含めて多くの人から集まってもらえる工夫が必要ではないか。特に海や人魚像があるので、柏崎の恋人岬のように若い人たちが集まれるように工夫ができないか。歴史について、ガイドをしてもらえるような詳しい人たちの名簿を作ったり、ガイドを養成したりすることも必要ではないか。偉人についてはもっと深く知ってもらえるような手ごろな冊子を作る必要がある。大潟区の住民が大潟の魅力を分かっていない現状がある。人が集まる場所に大潟全体の文化や歴史、観光、自然が分かる展示なども考えていく必要がある。大潟区に各種団体があり各々で頑張っているが、そういった人たちが集まって分野別に定期的に情報交換をしたり、組織同士の繋がりを作っていくことも必要ではないか。鵜の浜色彩音楽花火は市の補助金で開催しているが、かっぱ祭りのように各家

庭から協賛金等を集めて大潟全体の花火に広げていくこともいいのではないかと。工業団地があるが、そこにある企業の紹介などもう少しPRができるといいなどの意見が出た。

【俵木副会長】

地域の魅力の向上班では、今日は思っていることをざっくばらんに挙げてもらった。だぶっている分野もあるので、次回は出た意見を3つくらいに分けて、そこからまとめていきながら進めたい。大潟の住民が大潟全体や大潟の魅力を知らない。それを知らなければ先に進めないと思う。

【土屋会長】

協議事項について終了する。その他に入る。総合事務所から連絡事項はあるか。

【風間班長】

令和6年度冬期道路交通確保除雪計画を配付したのでご確認いただきたい。

【土屋会長】

委員から連絡等はあるか。

【小林委員】

今日は傍聴に来られた方がいた。地域協議会だよりも傍聴の案内を掲載しているが、もっと来ていただくための工夫はできないか。「来てください。来てください。」だけではなく、来ていただくための工夫が必要であると感じている。

【土屋会長】

日程は決まっているので、皆さんも聞いていただきたい方などに声がけしていただければと思う。次回の日程連絡をお願いします。

【水澤主任】

次回は、1月16日（木）となる。冬期間となり暗くなる時間も早く、足元も悪くなることが予想されるが、これまでどおり午後7時からの開始でよいか。

（一同了承）

それでは、1月16日（木）午後7時から、第9回地域協議会を大潟コミュニティプラザ2階大会議室で開催する。

【土屋会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 025-534-2111 (内線 201、216)

E-mail : ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。